

デーリー東北

2026年(令和8年)6月14日(日曜日) (1)

課題の渋滞どう防ぐ？

■要支援者に限定
 八戸市津波避難計画によると、車の利用は円滑な避難ができない恐れがあると見て、避難方法を「原則徒歩」と設定。▽地震による道路の損傷や信号の不点灯、建物の倒壊などによる交通障害▽避難車両の集中による渋滞や事故の発生▽徒歩避難者の妨げになる「など理由を挙げる。

例外的に車避難を容認するのは、近くに高台がなく自力での避難が困難な高齢

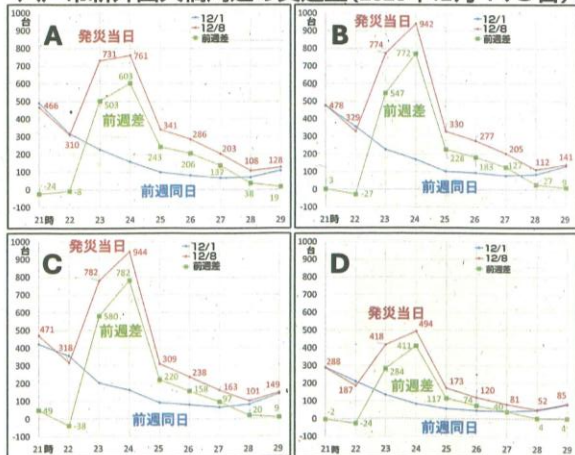
地震 再考

震度6強から半年

津波警報 車避難

専門家「流れのコントロールを」

八戸市新井田大橋周辺の交通量(2025年12月1、8日)



日本道路交通情報センターのデータを基に堀合紳弥氏が作成



者や障害者といった「避難行動要支援者」などに限定。東運動公園駐車場、白山台公園など8カ所について車避難を容認する人の緊急避難場所としている。

■全国でも課題に
 昨年7月のロシア・カムチャツカ半島沖の地震では、北海道から和歌山県にかけて津波警報が発表された。同10月に国が北海道、宮城県、神奈川県、静岡県

の住民4300人を対象に行ったアンケートでは「避難した」と回答した1012人のうち、半数を超える560人、55・3%が車を

使い、徒歩の396人、39・1%を上回った。

■右左折のリスク
 昨年12月に八戸市で震度6強を観測した地震の際、国道45号が通る市内の新井田大橋周辺でも渋滞が発生した。

日本道路交通情報センターが公開している交通量情報によると、諏訪方面から新井田大橋を越え、四本松交差点手前までの計測地点は前週を大きく上回る交通

量で渋滞している状況がうかがえるが、同交差点を越えた計測地点では交通量が半減している。

八戸工業大工学科の堀合紳弥助教(29)は避難交通計画は「半分の車両は白銀方面に左折するか、田向方面に右折したのだろう。ただ、右左折は交通の流れを止め、渋滞の原因となる」と指摘する。

その上で「右左折をせず、真つすく進んでもらうなど避難する車をコントロールし、渋滞させない方法を考えることも重要だ」と強調した。(上條哲洋)

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。